

令和2年度 第1回学校協議会議事録概要

日時 令和2年7月8日(水) 15:30~17:30

場所 大阪府立堺工科高等学校 図書室

1. 開会のあいさつ(校長)

2. 自己紹介(委員、事務局)

3. 会長・副会長選出

会長に大阪府立大学 金野 泰幸 委員

副会長に大阪工業大学 皆川 健多郎 委員 が選出される。

4. 委嘱状伝達

5. 学校経営計画について

(1) 中期的目標

昨年度の学校運営協議会の意見より、異文化の理解と英語を「話す・聞く」をより深めるため英語の外国人講師による授業を1クラスあたり週2時間から週3時間に増加。また電子黒板がある2年の教室ではタブレットを使用した授業が増えた。今後1年、3年の教室にも電子黒板を設置する予定。

(2) 本年度の取り組み

本年度の各項目の重点目標について説明後、各委員よりご意見をいただいた。

- ・工業教育の充実について、令和4年度の入学生からPBL学習を導入する流れになっている。本校の強みを明確にし、どのような形で学習内容に落とし込むか、PT(プロジェクトチーム)を立ち上げ今年度中に方向性決定していく。1年生から実施するにあたって、ものづくりから外れないように、また2年間のPBL授業の成果を3年生の課題研究で生かせるような内容が求められる。
- ・教員の資質向上について、COVID-19(コロナ)の影響により、オンライン授業などのICTを活用した教育の整備が求められている。本校でもオンライン授業の確立を宣言しており、COVID-19の第2波に備えGsuiteの準備を整えた。大学ではオンライン授業の内容について、学生からの質問はメールで行っている。学生と文字を使ったコミュニケーションができるようになったのは良い点である。GoogleのClassroomなどの新たな手段をプロジェクトチームで検討することが必要になる。
- ・全体を通して、COVID-19流行中の4月に立てた目標であれば、3カ月経過して状況が変化しているので、一度目標の見直しが必要。

(3) 教科書採択について

- ・教科書採択にあたり、図や絵が多く、説明が読み取りやすい内容にまとめられた内容のものを中心に採択されている。

6. 協議

- ・工業高校の改編について、実践的技能養成重点型校をめざすにあたって、新たなことに力を注ぎすぎると基礎の部分がおろそかになり、生徒が何を学んでいるかわからなくなることが懸念される。また技術ばかりを磨くのが良いわけではないので、戦略的な部分やマネジメント力を入れると本校特色が出てくるのではないか。企業としては、世界的なマーケットを見据えた教育が必要になっている。
- ・中学生に対する学校アピールについて、中学校では堺工科の情報が入らなかった。オープンスクールの丁寧な案内のおかげで詳しく知ることができた。工科高校は特殊だと思っているので、中学生に堺工科の良さをアピールするべき。堺工科の情報を伝えるためにも、専門学校でも行っているLINE等のSNSを利用したオンライン説明会や、ホームページに保護者目線を重視した動画や写真を使った校内案内図、部活動などの学校生活風景、現役生徒や卒業生のメッセージなどを掲示してほしい。

7. 事務連絡

8. 閉会のあいさつ